

## 上対馬の現場から

(記事提供：古場公章氏「にしどまり情報誌」主宰)

### 日本海海戦 100 年 日露友好誓い慰霊祭

日露戦争の日本海海戦から百年を迎えた 2005 年 5 月 27 日午前、長崎県対馬市上対馬町沖の対馬海峡で海上慰霊祭があり、ロシュコフ駐日ロシア大使やコステンコ駐日ウクライナ大使、金子原二郎長崎県知事らが海に花束を投げ入れ、両国の戦没者を追悼した。

同祭は、長崎県や民間団体「対馬・歴史顕彰事業推進委員会」などでつくる実行委員会が主催。ロシアとウクライナからの計七人を含む参加者約 340 人は同日午前 10 時半、海上自衛隊の掃海艇二隻などで同町から数キロ沖の海上へ。ロシュコフ大使らが「日露の友好は国益に合致し世界平和にも大切。相互理解を深めるために来た」などと両国の友好を誓った後、献花し、黙とうした。

漁船約百隻も出て、冥福を祈った。同日午後は、海を望む同町の丘で、百年を記念し設置した「平和と友好の碑」と「日露慰霊の碑」の除幕式と、日露合同慰霊祭がある。

日本海海戦は 1905 年 5 月 27、28 日に対馬海峡でロシアのバルチック艦隊と日本の連合艦隊が戦火を交えた。沈没したロシア艦船から 242 人のロシア兵が対馬に漂着し、住民がこだわりなく世話をしたという。

### 101 年の時空を超えて

「当時の対馬の人々が示された人道愛は、今日に生きる私達の心に大きな感動をもたらした。先人が命を捧げ苦勞して築き上げた今日の平和。これを守り続けることの大切さを忘れず、これからも日露両国の友好を大切にしていきたい。そして世界平和を願って止みません」。

(保坂宗子)

2006 年 5 月 27 日対馬・歴史顕彰事業推進委員会主催の対馬沖海戦 101 周年追悼記念式典が、上対馬町殿崎の「日露友好の丘」、国民宿舎上対馬荘他で開催された。今年はロシア側から、バルチック艦隊司令長官のロジェスト・ウェンスキー提督の曾孫にあたるジノビー・スペチンスキーさんと、日本側から旧日本連合艦隊司令長官東郷平八郎提督の曾孫にあたる保坂宗子さん夫妻が来賓として来島し、両国の兵士 5120 人の英霊を慰霊、平和と友好を誓った。

慰霊祭の祭典(神事)が上対馬荘で厳粛に行われ、保坂さん夫妻、スペチンスキーさんとサルキノフ山梨学院大学教授、永尾一三対馬市助役、歴史顕彰事業推進委員会、西泊地区の住民等により、玉串奉てんが行われた。

次に殿崎「日露友好の丘」に移動。ロシア政府が、昨年 100 周年記念式典の際建立した「日露慰霊碑」に参列者全員で献花した。

続いて「平和と友好の碑」の前で、保坂さんが「私の心の支えになっていたのが、曾祖父東郷平八郎が、ロジェスト・ウェンスキー提督をお見舞いし、互いに敬意をもって握手を交わしているこの絵でした。この絵が「平和と友好の碑」となったことは私にとって本当にうれしく

思います。また、私だけでなく、スペチンスキーさんもこの絵を見てお育ちになられたという事実に変な感慨深いものがある」と話した。

また、ロシア側のスペチンスキーさんは、「以前から日本に来ることが夢だった。日本に来て、また対馬に来ることは想像もしていなかった。ロシア人にとって、101年前のことは悲劇でしたが、当時温かくもてなしてくれたこと、また現在まで、ロシアと日本の共通の歴史を大切にいただいていることに心から感謝しています」と話した。その後、101年の時空を越えて、当事者の曾孫による感動・友好のシーンが再現された。

記念行事として映画「男たちの大和」を上映した。また、27日は歓迎レセプションで、武末委員長は「ここ対馬の地でスペチンスキーさんと保坂さんの再会が実現できた事、これで昨年の100周年記念事業が100パーセント仕上がった」と話した。

また、サルキソフ教授が、昨年100周年記念に来島したロシュコフ駐日大使の「皆さんのおかげで、100周年記念事業が盛大に挙行されて本当に感謝しています。戦後、対馬という言葉はロシア人にとって、敗戦、敗北といった非常に悲しいイメージだったが、今は完全に違います。対馬は日露友好、日露の将来の象徴です。皆様のご多幸をお祈りします」と、メッセージを紹介した。

(記事は「対馬新聞」などから)



### 殿崎記念碑建立百周年記念事業実行委員会

090-4514-2407

のぼり・Tシャツ  
作成

7月2日(土) 100周年イベントのぼりが完成。国境マラソンに併せ西泊区内、殿崎、三宇田浜にのぼりを設置。来年のイベントをPRしました。また、前日には「恩海義嶠」Tシャツが完成し、

今後販売を始めます。サイズはS、M、L、LL。色は白と黒。金額は2000円程度。ポロシャツや長袖でも可能です。申込等は古場までお知らせ下さい。



### 国境マラソンで健脚

～一宮薫子6位～

3日に行われた第15回国境マラソンIN対馬では(西泊関係者)5キロの部に出場の一宮薫子が6位入賞。ハーフの部には梅野麻美が完走。

10キロには、梅野豊茂。5キロの部には犬束卓也、

【左：記念碑前のぼり設置 中：マラソン会場でのぼりと白Tシャツ 右：黒Tシャツ】

久壽米木恵里奈。(情報紙60号参照)

さらに3キロ中学生の部に榎野麻菜美、森田美保。小学5年生女子の部に一宮七海がそれぞれ出場。皆さんすばらしい走りを披露されました。暑い中お疲れさまでした。

### 「対馬の塔」ロシア・サンクトペテルブルグ・クロンシュタット地区



サンクトペテルブルグにある「対馬の塔」は2006年建立されたもの。碑には「1905年5月14-15日 対馬沖海戦のロシア海軍軍人に永遠の栄光あれ」日付はロシア革命前のロシア暦。サンクトペテルブルグは、バルト海に面しロシア帝国時代の首都であり、現在ロシア第二の都市。バルチック艦隊出撃の港でもあります。写真は在サンクトペテルブルグ日本領事館提供。

※クロンシュタット地区=サンクトペテルブルグ中心から北西に約32キロ。フィンランド湾に浮かぶコトリン島にある。人口4万4千人。バルチック艦隊の軍港。

【ロシアサンクトペテルブルグにある「対馬の塔」】

### ～～西泊農組説明会～～

#### トレッキングコース整備について

6月24日、農組の集まりがありました。

これは観光物産推進本部上対馬観光物産事務所が殿崎記念碑から突端までのトレッキングコース工事の説明会。赤道(あかみち)を中心に竹を切り、見通しよくする。作業員は3人で7月から作業を始める。この会議終了後、記念碑建立の寄付についても協議がなされました。





# にしどまり

第106号

地域マネージャー情報紙

2012. 5. 28

編集責任者・古場公章

## 先人の美拳を後世に



5月26日(土) 殿崎記念碑建立百周年記念事業実行委員会主催の追碑除幕式、慰霊祭が開催されました。この日は西泊区民や川本上対馬地域活性化センター部長、廣崎海上自衛隊上対馬警備所長、武末裕雄対馬・歴史顕彰事業推進委員会委員長など78名の参加がありました。その後花海荘で行われた祝賀会は、財部市長、高屋副市長も加わり盛会のうちに終了。シンガーソングライター野田かつひこさんも特別参加。

除幕式のあいさつで、犬束委員長は、「先人の美拳を後世に」を合言葉に地区の先人がなした国境を越えた人道愛を後世に伝えていく記念碑。また、来賓あいさつで犬束通さんはこれまでの取り組みや思いを語りながら、今後後継者を出来る限り支えていきたいと話されました。



## 日露両国の英霊を供養



除幕式後、慰霊祭を挙行。まず、全員で黙祷(もくとう)、お二人の神官(修行ひさみ、修行勝代)より追碑のお払いと日露両国の英霊に祝詞(のりと)をあげ、その後、宮司、実行委員長、来賓代表、農組長、区長が玉串奉奠(たまぐしほうてん)。最後は、出席者全員が白菊を献花しました。

祝辞は、対馬市(川本治源上対馬活性化センター部長が市長代理)、対馬・歴史顕彰推進委員会武末裕雄委員長、「此と記念碑」著者の犬束通さん。慰霊祭の追悼のことばを扇一夫区長、ロシア対馬海戦参戦者家族会(オゼーロフ会長)からのメッセージを古場事務局が代読。モノマフ号関係者からのメッセージも届いています。

